

PlateSpin Migrate 12.2.2

リリースノート

2018 年 4 月



PlateSpin Migrate 12.2.2 には、新機能と機能の改善が含まれており、既知の問題もいくつか解決されています。サービスパックには、PlateSpin Migrate 12.2.1 リリース以降にリリースされたすべてのパッチおよびホットフィックスが含まれています。

この製品のマニュアルは、PlateSpin Migrate 12.2.2 マニュアルの Web サイト (<https://www.netiq.com/documentation/platespin-migrate-12-2-2>) に HTML 形式と PDF 形式で用意されています。

この製品には、文書化されていないユーティリティが付属しています。これはテクニカルサポートチームが問題の診断または解決を行う際に使用します。

- ◆ 1 ページのセクション 1 「新機能」
- ◆ 7 ページのセクション 2 「非推奨となった機能」
- ◆ 7 ページのセクション 3 「既知の問題」
- ◆ 12 ページのセクション 4 「解決された問題」
- ◆ 17 ページのセクション 5 「PlateSpin Migrate のインストールまたは更新」
- ◆ 17 ページのセクション 6 「ライセンス情報」
- ◆ 18 ページのセクション 7 「以前のリリース」
- ◆ 18 ページのセクション 8 「Micro Focus への連絡方法」
- ◆ 18 ページのセクション 9 「保証と著作権」

1 新機能

PlateSpin Migrate 12.2.2 には、複数の新機能および機能の改善が含まれています。

これらの改善の多くは、お客様から直接ご提案いただいたものです。皆様の貴重なお時間とご意見に感謝いたします。弊社の製品が皆様のご期待に添えるよう、引き続きお力添えを賜りたく存じます。フィードバックは当社オンラインコミュニティ「Micro Focus Forums」の [PlateSpin Migrate フォーラム](https://forums.novell.com/forumdisplay.php/1337-Platespin-Migrate) (<https://forums.novell.com/forumdisplay.php/1337-Platespin-Migrate>) からお寄せください。こちらのコミュニティには、製品情報、ブログ、役立つリソースへのリンクなども掲載されています。

- ◆ 2 ページのセクション 1.1 「PlateSpin Migrate Server ソフトウェア」
- ◆ 3 ページのセクション 1.2 「PlateSpin Migrate Client ソフトウェア」
- ◆ 3 ページのセクション 1.3 「Azure の PlateSpin Migrate イメージ」
- ◆ 3 ページのセクション 1.4 「サポートされる構成」
- ◆ 6 ページのセクション 1.5 「PlateSpin ISO」

- ◆ 7 ページのセクション 1.6 「PlateSpin 環境設定パラメータ」
- ◆ 7 ページのセクション 1.7 「セキュリティ」

1.1 PlateSpin Migrate Server ソフトウェア

PlateSpin Migrate 12.2.2 には、PlateSpin Migrate Server ホストコンポーネント用の次の改善点が含まれます。詳細については、『インストールおよびアップグレードガイド』の「[System Requirements for PlateSpin Server](#)」を参照してください。

PlateSpin Server ホストの要件	詳細
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PlateSpin Server ホストオペレーティングシステムとしての Microsoft Windows Server 2016 のサポートが追加されました。 ◆ PlateSpin Server ホストオペレーティングシステムとしての Microsoft Windows Server 2008 R2 のサポートが非推奨になりました。 <p>注：Windows Server 2008 R2 プラットフォームからの直接的なアップグレードパスはサポートされていません。『インストールおよびアップグレードガイド』の「Upgrading to a New Host Platform」を参照してください。</p>
データベースサーバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PlateSpin Migrate 12.2.2 ディストリビューションに Microsoft SQL Server 2014 Express Edition ではなく、Microsoft SQL Server 2017 Express Edition が含まれています。 <p>注：PlateSpin Migrate Server をバージョン 12.2.2 にアップグレードする場合、インストールされている Microsoft SQL Server 2014 Express はサポートされません。SQL Server Express ソフトウェアは更新されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Microsoft SQL Server 2016 のサポートが追加されました。
必須ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PlateSpin Migrate Server ホストとして Windows Server 2016 を使用することが前提条件として追加されました。 ◆ Microsoft .NET Framework 4.7.1 の要件が追加されました。 ◆ Microsoft .NET Framework 3.5. SP1 の要件が非推奨になりました。 <p>詳細については、『インストールおよびアップグレードガイド』の「Prerequisite Software」を参照してください。</p>

1.2 PlateSpin Migrate Client ソフトウェア

PlateSpin Migrate 12.2.2 には、PlateSpin Migrate Client ホストコンポーネント用の次の拡張機能が含まれます。詳細については、『インストールおよびアップグレードガイド』の「[System Requirements for PlateSpin Migrate Client](#)」を参照してください。

PlateSpin Migrate Client ホストの要件	詳細
オペレーティングシステム	PlateSpin Migrate Client ホストオペレーティングシステムとしての Microsoft Windows Server 2016 のサポートが追加されました。
Windows ソフトウェアコンポーネント	Microsoft .NET Framework 4.7.1 の要件が追加されました。

1.3 Azure の PlateSpin Migrate イメージ

PlateSpin Migrate 12.2.2 には、Azure Marketplace および Azure China Marketplace にある PlateSpin Migrate イメージ用の次の拡張機能が含まれます。

PlateSpin Migrate イメージ	詳細
PlateSpin Migrate Server 12.2.2	<ul style="list-style-type: none">◆ PlateSpin Migrate Server ホストオペレーティングシステムとして Windows Server 2016 を使用します。◆ Spectre と Meltdown の脅威を阻止するために、Microsoft が推奨するセキュリティ拡張機能を適用します。◆ NetIQ から Micro Focus へ名称変更されました。
PlateSpin Replication Environment (PRE) 12.2.2	<ul style="list-style-type: none">◆ Linux RAMDisk (LRD) ホストオペレーティングシステムとして SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 を使用します。◆ NetIQ から Micro Focus へ名称変更されました。

1.4 サポートされる構成

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、ソースワークロードとターゲットコンテナに対するサポートが強化されています。

- ◆ [4 ページのセクション 1.4.1 「サポートされる Windows のワークロード」](#)
- ◆ [4 ページのセクション 1.4.2 「サポートされる Linux のワークロード」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.4.3 「サポートされるターゲットプラットフォーム」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 1.4.4 「MPIO のサポート」](#)

1.4.1 サポートされる Windows のワークロード

サポートされるターゲットプラットフォームで説明されているとおり、PlateSpin Migrate 12.2.2 では新しいターゲット仮想化プラットフォームで Windows ワークロードをサポートしています。サポートされる Windows ワークロードに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされる構成](#)」を参照してください。

1.4.2 サポートされる Linux のワークロード

サポートされるターゲットプラットフォームで説明されているとおり、PlateSpin Migrate 12.2.2 では新しいターゲット仮想化プラットフォームで Linux ワークロードをサポートしています。サポートされる Linux ワークロードに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされる構成](#)」を参照してください。

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、次の Linux ワークロードのサポートが追加されています。プリコンパイル済みの blkwatch ドライバについては、『ユーザガイド』の「[ディストリビューションのリスト](#)」を参照してください。

プラットフォーム	バージョン	備考
Red Hat Enterprise Linux (RHEL)	7.4	<p>このリリースでは、RHEL 7.3 以降、およびこれらのバージョンに基づいたディストリビューションでの XFS バージョン 5 (v5) ファイルシステムのサポートが追加されました。vCloud ターゲットコンテナは、このサポートの対象ではありません。</p> <p>VMware vCloud ターゲットコンテナでは、PlateSpin Migrate で XFS バージョン 5 (v5) ファイルシステムがサポートされません。RHEL 7.3 と 7.4 (およびこれらに基づいたディストリビューション) は、XFS v5 ファイルシステムを持つワークロードでサポートされていません。</p> <p>このリリースでは、GRUB 2 ブートローダを使用する Linux ワークロードのサポートが追加されました。</p> <p>LVM ボリュームを持つ Red Hat Enterprise Linux 6.8、Oracle Linux 6.8、および CentOS 6.8 のワークロードについては、PlateSpin Migrate は、6.8 ディストリビューション用の最新の使用可能なカーネル (バージョン 2.6.32-696.20.1.el6.x86_64) に対してのみ増分レプリケーションをサポートします。</p>

プラットフォーム	バージョン	備考
Oracle Linux	RHEL に基づいたディストリビューション。	プリコンパイル済みの blkwatch ドライバは、標準カーネルおよび RHEL 6.7 以降用の Unbreakable Enterprise Kernel (UEK) で利用できます。
CentOS	RHEL に基づいたディストリビューション。	RHEL でプリコンパイル済みの blkwatch ドライバを使用します。

1.4.3 サポートされるターゲットプラットフォーム

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、次のターゲットプラットフォームのサポートが追加されています。サポートの詳細については、『ユーザガイド』の「[サポートされる構成](#)」を参照してください。

ターゲット仮想化プラットフォーム

サポートされるターゲット仮想化プラットフォームに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされるターゲット仮想化プラットフォーム](#)」を参照してください。

◆ VMware

- ◆ VMware vCenter 6.5 U1
- ◆ VMware ESXi 6.5 U1
- ◆ vSAN 6.6

◆ Microsoft Hyper-V

- ◆ Windows Server 2016 Hyper-V
 - ◆ Migrate Client は、Windows および Linux ワークロードの Windows Server 2016 Hyper-V への自動マイグレーションまたは半自動マイグレーションをサポートします。
 - ◆ ソースワークロードに存在するファームウェアの種類に関係なく、Windows ワークロードは BIOS ワークロードとしてマイグレートされます。詳細については、「[Windows ワークロードを UEFI ベースのターゲットとして Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V にマイグレートできない](#)」を参照してください。

◆ KVM

- ◆ RHEL 7.4 KVM
- ◆ KVM へのマイグレーションのサポートは、RHEL 7.4 より前のバージョンでは非推奨になりました。

◆ Citrix XenServer

- ◆ Citrix XenServer 7.3
- ◆ Citrix XenServer 6.5 以前のバージョンのサポートが非推奨になりました。

ターゲットクラウドプラットフォーム

サポートされるターゲットクラウドプラットフォームに関する詳細および注意事項については、『ユーザガイド』の「[サポートされるターゲットクラウドプラットフォーム](#)」を参照してください。

◆ Amazon Web Services

- ◆ AWS から Azure への VM のクラウド間自動マイグレーションをサポート。『ユーザガイド』の「[Prerequisites for Migration from AWS to Azure](#)」を参照してください。
 - ◆ 拠点 (AWS、Azure、データセンター) 間の通信にサイト間 VPN 接続は必要ありません。
 - ◆ インターネットアクセスとパブリック IP アドレスは必要です。
 - ◆ Azure に展開されている Migrate Server にソース AWS VM を登録するために Migrate Agent を使用します。
- ◆ AWS へのマイグレーション中に EBS ボリュームを暗号化するオプション。

◆ Microsoft Azure

- ◆ AWS から Azure への VM のクラウド間自動マイグレーションをサポート。『ユーザガイド』の「[Prerequisites for Migration from AWS to Azure](#)」を参照してください。
 - ◆ Azure で Migrate Server が必要です。
 - ◆ インターネットへのアクセスが必要です。
 - ◆ Migrate Web インタフェースを使用して、登録済みのソース AWS VM のクラウド間自動マイグレーションを設定します。
 - ◆ Azure のターゲット VM の AWS ツールを自動的に削除します。

◆ VMware vCloud Director

- ◆ VMware vCloud Director 8.20

1.4.4 MPIO のサポート

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、SAN ディスクのみを備えた次のワークロード上のファイバチャネル (FC) SAN に対する Multipath I/O (MPIO) のサポートが追加されています。ワークロードは SAN ディスクからブートする必要があります。MPIO では、ローカルディスクと SAN ディスクの混在はサポートされていません。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux 6.8

『ユーザガイド』の「[Multipath I/O](#)」を参照してください。「[PlateSpin ISO](#)」も参照してください。

1.5 PlateSpin ISO

このリリースでは、PlateSpin ISO は Linux RAMDisk (LRD) で SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 を使用しています。ISO ファイルによって、次の機能が追加されます。

- ◆ 64 ビットワークロードのマイグレーションのサポート。
- ◆ FCoE または MPIO (あるいはその両方) を必要に応じて使用するためのブートオプション。
- ◆ Linux ワークロードにおける GRUB 2 (Grand Unified Bootloaderバージョン2) ブートのサポートの追加。
- ◆ 対応する設定に基づいた XFS v5 ファイルシステムのサポートの追加。詳細については、「[サポートされる Linux のワークロード](#)」を参照してください。

SLES 11 SP4 に基づいた PlateSpin ISO は、32 ビットワークロードのマイグレーションに使用できません。

『ユーザガイド』の「[PlateSpin ISO イメージのダウンロード](#)」を参照してください。

1.6 PlateSpin 環境設定パラメータ

PlateSpin Migrate 12.2.2 の PlateSpin 設定ツールには、次のパラメータが追加されています。

- ◆ **RemoveVMwareDevicesAtCutover:** PlateSpin 設定パラメータ
RemoveVMwareDevicesAtCutover は、正常にカットオーバーした後でフロッピードライブを取り外すかどうかを制御します。デフォルト値は **[False]** で、VM には接続しないものの、余分なフロッピードライブをアタッチしたままにします。この値を **[True]** に設定すると、カットオーバー時における余分なフロッピードライブの取り外しを必須にすることができます。この取り外しプロセスによって、ゲスト OS はいったんシャットダウンされてから再起動されません。この再起動は必須です。

1.7 セキュリティ

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、PlateSpin Server 用の TLS 1.2 接続のサポートが追加されています。

企業内におけるその他の Windows サーバの場合と同様に、PlateSpin Migrate Server ホストと PlateSpin Migrate Client ホストについても、ベストプラクティスとしてセキュリティ脆弱性に対応するパッチを適用する必要があります。

Micro Focus は、サイドチャネル分析の脆弱性を認識しています。これは、CVEs 2017-5715、2017-5753、2017-5754 で説明されており、Meltdown および Spectre と呼ばれています。現在の推奨アクションは、Azure の PlateSpin Server イメージに適用済みです。PlateSpin ホストの Windows オペレーティングシステムについては、Microsoft が推奨するとおり、脅威に対応するセキュリティ更新を引き続き適用していくことを強くお勧めします。詳細については、ベンダ固有のドキュメントを参照してください。

2 非推奨となった機能

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、次の機能がサポートされなくなりました。

- ◆ Windows Server 2008 R2 上での PlateSpin Migrate Server のインストールまたはアップグレード。
- ◆ SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3に基づいたPlateSpin ISOでKVMがサポートされていない場合、Red Hat Enterprise Linux 7.3 以前のバージョン上にあるターゲット VM へのマイグレーション。
- ◆ Citrix XenServer 6.5 以前のバージョン上にあるターゲット VM へのマイグレーション。

3 既知の問題

Micro Focus は、弊社の製品が企業のソフトウェアニーズを満たす高品質のソリューションを提供できるように、常に努力しています。次の問題は、現在調査中です。問題についてさらにサポートが必要な場合は、[Micro Focus のサポートサービス \(http://www.microfocus.com/support-and-services\)](http://www.microfocus.com/support-and-services) にお問い合わせください。

以前のリリースでの既知の問題については、「[以前のリリース](#)」を参照してください。

- ◆ [8 ページのセクション 3.1 「インストールまたはアップグレードに関する既知の問題」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 3.2 「Hyper-V へのマイグレーションに関する既知の問題」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 3.3 「KVM へのマイグレーションに関する既知の問題」](#)

- 10 ページのセクション 3.4 「VMware へのマイグレーションに関する既知の問題」
- 11 ページのセクション 3.5 「一般的な問題」

3.1 インストールまたはアップグレードに関する既知の問題

3.1.1 Windows Server 2012 R2 での PlateSpin Server のインストールまたはアップグレードが Symantec Endpoint Protection によってブロックされる

問題: Windows Server 2012 R2 サーバが Symantec Endpoint Protection によって保護されている場合、Symantec プロアクティブ脅威防止 / ウィルスとスパイウェアの対策ポリシーの一部である SONAR によって、PlateSpin Server のインストール / アップグレードファイルが誤って隔離されることがあります。(バグ 1080782)

解決策: 次のいずれかの操作を実行します。

- PlateSpin Server をインストールまたはアップグレードする際には、Symantec Endpoint Protection を無効にします。
- PlateSpin インストール / アップグレードファイルの抽出先フォルダを SONAR の検出対象から外します。 %TEMP% フォルダはデフォルトの抽出先です。Symantec の Web サイトの「[Managing SONAR](#)」を参照してください。

3.1.2 Windows 2008 R2 で実行されている PlateSpin Server にアップグレードを適用できない

問題: PlateSpin Migrate 12.2.2 は、Windows 2008 R2 で実行されている PlateSpin Server の直接的なアップグレードをサポートしていません。

解決策: データベースをエクスポートしてから、サポートされている Windows Server プラットフォームに Migrate Server を展開できます。『インストールおよびアップグレードガイド』の「[Upgrading to a New Host Platform](#)」を参照してください。

3.2 Hyper-V へのマイグレーションに関する既知の問題

3.2.1 半自動 (X2P) マイグレーションを使用して Linux ワークロードを Hyper-V のターゲット VM にマイグレートできない

問題: ジョブネットワーク設定で、データ転送中のデータ圧縮を許可する [圧縮を有効にする] オプションが選択されている場合、半自動 (X2P) ワークフローを使用して Linux ワークロードをターゲット VM にマイグレートしても、次のエラーによりマイグレーションジョブが失敗します。(バグ 1089276)

Message Exception happened in Compressor Decompressor: Compressor::RunDecompressor(). (コンプレッサのデコンプレッサでメッセージ例外が発生しました: Compressor::RunDecompressor().)

解決策: 半自動 (X2P) ワークフローを使用して Linux ワークロードをターゲット VM にマイグレートする前に、[ジョブ環境設定] ウィンドウの [ネットワーク] セクションで [圧縮を有効にする] オプションを選択解除します。

3.2.2 Windows ワークロードを UEFI ベースのターゲットとして Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V にマイグレートできない

問題: UEFI または BIOS の Windows ワークロードを Windows Server 2016 Hyper-V ターゲットにマイグレートする場合、[Hyper-V 仮想マシン設定] ダイアログの仮想マシンのジェネレーションタイプはデフォルトで [ジェネレーション 1] に設定されますが、このジェネレーションタイプを編集することはできません。(バグ 1087212)

解決策: なし。Migrate Client は、Windows Server Hyper-V 2016 へのマイグレート時に UEFI 間または BIOS から UEFI への Windows 変換をサポートしていません。ソースアーキテクチャとは関係なく、ターゲットワークロードは BIOS アーキテクチャとして展開されます。

『ユーザガイド』の「[Planning for Migration to Microsoft Hyper-V](#)」を参照してください。

3.2.3 Windows ワークロードを Windows Server 2016 Hyper-V のターゲット VM にマイグレートする際に、Hyper-V 統合サービスのインストールを促す警告メッセージが表示される

問題: Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 のソースワークロードを Microsoft Windows Server 2016 Hyper-V にマイグレートする際に、Migrate で C:\Windows\system32\vmguest.iso ファイルを使用して Hyper-V 統合サービスドライバを Hyper-V のターゲット VM にインストールできない場合、次のジョブ警告メッセージが表示されます。

"InstallHyperVIntegrationServices" (Failed: Non-Critical Error) (「InstallHyperVIntegrationServices」(失敗: 重要でないエラー))

マイグレーションは正常に完了しますが、ターゲット VM に Hyper-V 統合サービスが自動インストールされることはありません。(バグ 1084987)

解決策: PlateSpin Migrate Client は、マイグレーション中に Hyper-V ホスト上の C:\Windows\system32\vmguest.iso ファイルを使用してゲスト VM に Hyper-V 統合サービスをインストールします。しかし、Windows Server 2016 Hyper-V には C:\Windows\system32\vmguest.iso ファイルが存在しません。Hyper-V 2016 では、ゲスト VM のドライバ管理に別の方法が使用されるからです。

この問題の解決策として、次のいずれかの対応により、Hyper-V 統合サービスドライバを Windows Server 2016 Hyper-V ホストのゲスト VM にインストールしてください。

- マイグレーション時の Hyper-V 統合サービスドライバのインストールを Migrate で有効にする。Hyper-V 2016 ホストへのマイグレーションを開始する前に、Server 2012 R2 Hyper-V ホスト上にある C:\Windows\system32\vmguest.iso ファイルを Windows Server 2016 Hyper-V ホスト上の同じ場所へコピーします。
- マイグレーション中はエラーメッセージを無視する。マイグレーション後、ゲスト VM に Hyper-V 統合サービスドライバを手動でインストールします。Windows のゲスト VM で Windows Update を適用して Hyper-V 統合サービスドライバを追加するか、必要に応じて Microsoft のその他のインストール方法を採用します。Linux のゲスト VM の場合は、パッケージマネージャを使用して、Linux ディストリビューション用の組み込み統合サービスをインストールします。Microsoft ドキュメント Web サイトの「[Manage Hyper-V Integration Services](#)」を参照してください。

注 : Windows Update の適用時に Windows のゲスト VM で統合サービスドライバのインストールまたは更新が自動的に実行されるように、Hyper-V 統合サービスが正しく設定されているか確認してください。Linux のゲスト VM の場合は、パッケージマネージャを使用して、Linux 用の Hyper-V 統合サービスをインストールまたは更新してください。Linux ディストリビューション用の組み込みサービスですが、オプションの更新プログラムが提供される場合があります。Microsoft ドキュメント Web サイトの「[Manage Hyper-V Integration Services](#)」を参照してください。

『ユーザガイド』の「[Planning for Migration to Microsoft Hyper-V](#)」を参照してください。

3.3 KVM へのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ [10 ページのセクション 3.3.1「ターゲット VM に複数の NIC が存在する場合、1 つ以上の Virtio ディスクを備えた KVM 仮想マシンへのワークロードのマイグレーションが失敗する」](#)

3.3.1 ターゲット VM に複数の NIC が存在する場合、1 つ以上の Virtio ディスクを備えた KVM 仮想マシンへのワークロードのマイグレーションが失敗する

問題 : 1 つ以上の Virtio ディスクを備えた KVM 仮想マシンに Windows ワークロードをマイグレートする際にターゲット VM に複数の NIC が存在する場合、[オペレーティングシステムの設定] ステップで回復可能なエラーが発生してワークロードのマイグレーションが失敗します。(バグ 1085105)

解決策 : KVM ホストのターゲット VM で Virtio ディスクを使用するときは、ターゲット VM の NIC が 1 つだけであることを確認してください。または、ターゲット VM に複数の NIC が存在するときは Virtio ディスクを使用しないでください。この状況で SATA などの別のディスクタイプを使用することはできます。

3.4 VMware へのマイグレーションに関する既知の問題

次の問題は調査中です。

- ◆ [10 ページのセクション 3.4.1「VMware クラスタへのカットオーバー後にシャットダウンされたターゲット VM にネットワーク接続できない」](#)
- ◆ [11 ページのセクション 3.4.2「複数の NIC を持つ Linux ワークロードの VMWare クラスタターゲットへの増分レプリケーションが、\[データのコピー\] ステップで機能停止する」](#)

3.4.1 VMware クラスタへのカットオーバー後にシャットダウンされたターゲット VM にネットワーク接続できない

問題 : ワークロードを VMware クラスタにマイグレートする際に、カットオーバー後にターゲットをシャットダウンするようにマイグレーションジョブを設定すると、マイグレーションの完了後にターゲットはシャットダウンされますが、起動後もそのターゲット VM にネットワーク接続できません。(バグ 1089454)

解決策 : 次のいずれかの操作を実行します。

- ◆ カットオーバー後のターゲット VM のシャットダウンを選択せずにマイグレーションを実行する。
- ◆ ターゲット VM を起動する前に適切なネットワークを手動で設定する。

3.4.2 複数の NIC を持つ Linux ワークロードの VMWare クラスタターゲットへの増分レプリケーションが、[データのコピー] ステップで機能停止する

問題: 複数の NIC を持つ Linux ワークロードの VMWare クラスタターゲットへの増分レプリケーションを実行する際に、マイグレーションジョブの [ソースのレプリケーションネットワーク] 設定でレプリケーショントラフィック用のソースワークロードに対して 1 つの NIC しか指定しなかった場合、そのジョブは [データのコピー] ステップで機能停止してしまいます。(バグ 1089593)

解決策: 増分レプリケーションを実行する前に、マイグレーションジョブの [ソースのレプリケーションネットワーク] 設定にソース上のすべてのネットワークが含まれているか確認してください。

3.5 一般的な問題

3.5.1 Migrate Web インタフェース: ソースの Windows Server 2016 クラスタでシャットダウンがマイグレーション後の終了状態として設定されている場合、アクティブノードのみがシャットダウンされる

問題: Windows Server 2016 クラスタでシャットダウンがマイグレーション後の終了状態として設定されている場合、PlateSpin Migrate Web インタフェースによってシャットダウンされるのはクラスタのアクティブノードだけで、パッシブノードはシャットダウンされません。ソースノードは、すべて Migrate Client によって正常にシャットダウンされます。(バグ 1087669)

解決策: Windows Server 2016 クラスタでシャットダウンをマイグレーション後の終了状態として設定してもパッシブノードが自動シャットダウンされない場合は、それらのノードを手動でシャットダウンしてください。

3.5.2 XFS /boot ディレクトリを持つ古い Linux ワークロードでカットオーバー時のファイルベース転送の変換が失敗し、カーネルパニックが発生したり GRUB レスキューモードが作動したりする

問題: Migrate Client では、XFS /boot ディレクトリを持つ古い Linux ワークロードでカットオーバー時のファイルベース転送の変換が失敗しますが、レプリケーション自体は正常に完了します。しかし、カットオーバー時にターゲットワークロードを起動すると、カーネルパニックが発生するか (UEFI ワークロードの場合)、GRUB レスキューコンソールに XFS エラーが表示されて失敗します (BIOS ワークロードの場合)。この問題は、RHEL/CentOS/OL 7.1 以前のワークロードで報告されています。(バグ 1087726)

解決策: ブロックベースデータ転送を使用してマイグレートしてみてください。

3.5.3 RHEL 6.3 UEFI ワークロードの仮想マシンを起動する際にファイルベース転送の変換が機能停止する

問題: Migrate Client では、RHEL 6.3 UEFI ワークロードの仮想マシンを起動する際にファイルベース転送の変換が機能停止してしまいます。マイグレーションジョブの診断機能に、次のエラーが表示されます。

```
Configure Target Machine Running Controller > Starting Virtual Machine Running
Information:32:Task PowerOnVM_Task completed successfully
Information:32:ChangeVMState: failed to change state to poweredOn, current state
is poweredOff ( ターゲットマシンで実行されているコントローラを設定します > 実行中の仮想マシンを
起動しています 情報 :32: PowerOnVM_Task タスクが正常に完了しました 情報
:32:ChangeVMState: poweredOn に状態を変更できませんでした。現在の状態は poweredOff です )
```

このエラーは、ファイルベースデータ転送を使用して RHEL 6.3 UEFI ワークロードをマイグレートする場合にのみ報告されています。(バグ 1087728)

解決策: ブロックベースデータ転送を使用してマイグレートしてみてください。

3.5.4 ソースである Windows ワークロードが Citrix XenServer 上にある場合、[制御取得] ステップでファイルベース転送の変換が機能停止する

問題: ソースである Windows ワークロードが Citrix XenServer 上にある場合、NIC が制御下状態にあるソースとして検出されないため設定されません。ファイルベース変換プロセスは [制御取得] ステップで機能停止し、[Machine controller copy failed (マシンコントローラのコピーに失敗しました)] エラーが表示されます。(バグ 1085326)

解決策: ブロックベースデータ転送を使用してマイグレートしてみてください。

4 解決された問題

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、次の問題が解決されました。

- 13 ページのセクション 4.1「VMware ターゲット VM でフロッピードライブがクリーンアップされない」
- 13 ページのセクション 4.2「Linux ワークロードのマイグレーションを設定する際にボリュームを選択解除できない」
- 13 ページのセクション 4.3「Citrix XenServer 6.5 から KVM 7.2 へマイグレートした後で Linux ターゲットを起動できない」
- 13 ページのセクション 4.4「Xen から KVM へのマイグレーションで mkinitrd コマンドが失敗する」
- 14 ページのセクション 4.5「LVM ボリュームを持つ RHEL 6.8 ワークロードの増分レプリケーションを実行しても、ターゲットにデータが転送されない」
- 14 ページのセクション 4.6「Migrate Web インタフェース: ソースの Windows Server 2012 R2 クラスタでシャットダウンがマイグレーション後の終了状態として設定されている場合、アクティブノードのみがシャットダウンされる」
- 14 ページのセクション 4.7「カットオーバーテスト時またはカットオーバー時に Windows ワークロードのサーバ同期が失敗する」
- 14 ページのセクション 4.8「Web インタフェースで一部のクラウドインスタンスサイズがプレミアムストレージをサポートしていないと誤って表示される」
- 15 ページのセクション 4.9「Linux ワークロード: ブートおよびルートパーティションは同じディスクに存在する必要がある」
- 15 ページのセクション 4.10「PlateSpin OFX コントローラが仮想マシンソース上で起動しない」
- 15 ページのセクション 4.11「1500 未満の MTU 値の設定は、Hyper-V ホスト上の統合アダプタを使用する VM へのマイグレーションでは無効である」
- 15 ページのセクション 4.12「X2P ワークフローを使用して Windows ワークロードを Hyper-V ターゲットにマイグレートする際のエラー」
- 16 ページのセクション 4.13「ブートディスクとして Virtio ディスクを、データディスクとして IDE ディスクを持つ KVM 仮想マシンへのワークロードのマイグレーションが失敗する」
- 16 ページのセクション 4.14「ターゲット VM の VM コンソールウィンドウでマウスが機能しない」

- 16 ページのセクション 4.15 「Migrate Client: サーバの検出解除後、ジョブビューに、サーバの検出解除ジョブステータスが表示されない」
- 16 ページのセクション 4.16 「Web インタフェースに、検出されたワークロードの編集済みホスト名が表示されない」
- 17 ページのセクション 4.17 「Migrate Client で、ターゲットが正常に検出解除されてもターゲット検出解除ジョブでエラーが表示される」
- 17 ページのセクション 4.18 「ダイナミックメモリが有効になっている Hyper-V VM へのワークロードの X2P マイグレーションが失敗する」

4.1 VMware ターゲット VM でフロッピードライブがクリーンアップされない

問題: VMware へのマイグレーションのカットオーバー後も、ターゲット VM に接続されない余分なフロッピードライブがアタッチされたままです。(バグ 1076091)

修正: PlateSpin 設定パラメータ RemoveVMwareDevicesAtCutover は、正常にカットオーバーした後でフロッピードライブを取り外すかどうかを制御します。デフォルト値は False で、VM には接続しないものの、余分なフロッピードライブをアタッチしたままにします。この値を True に設定すると、余分なフロッピードライブの取り外しを必須にすることができます。この取り外しプロセスでゲスト OS をいったんシャットダウンしてから再起動する必要があります。

4.2 Linux ワークロードのマイグレーションを設定する際にボリュームを選択解除できない

問題: PlateSpin Migrate 12.2.1 でマイグレーションジョブを設定する際に Linux ワークロードのボリュームを選択解除できませんが、マイグレーションジョブの設定時にもデータボリュームの選択を解除する必要があります。(バグ 1084597)

修正: Linux ワークロードのデータボリュームを設定時に選択解除できるようになりました。

4.3 Citrix XenServer 6.5 から KVM 7.2 へマイグレートした後で Linux ターゲットを起動できない

問題: RHEL 5.x と 6.x ワークロードを、Citrix XenServer 6.5 から KVM 7.2 へのマイグレーション後に起動できません。(バグ 1079030)

修正: PlateSpin Migrate が grub.conf ファイル (console=hvc0) に Xen コンソールエントリがないかどうかをチェックし、ターゲットマシンからそのエントリを削除します。

4.4 Xen から KVM へのマイグレーションで mkinitrd コマンドが失敗する

問題: Xen から KVM へのマイグレーションで mkinitrd コマンドが失敗したのは、ソースとターゲットのカーネルに Virtio ドライバが正しく挿入されていなかったからです。(バグ 1076995)

修正: PlateSpin Migrate がソースとターゲットにおける Virtio の各種サポートを確認し、特定のマイグレーションシナリオに適した Virtio ドライバを挿入します。

4.5 LVM ボリュームを持つ RHEL 6.8 ワークロードの増分レプリケーションを実行しても、ターゲットにデータが転送されない

問題: LVM ボリュームを持つワークロードの増分レプリケーションでは、RHEL 6 U8 上にあるカーネルバージョン 2.6.32-642 用のプリコンパイル済み blkwatch ドライバが正常に機能しません。その結果、ターゲットマシンにデータが転送されません。(バグ 1078055)

修正: LVM ボリュームを持つ Red Hat Enterprise Linux 6.8、Oracle Linux 6.8、および CentOS 6.8 のワークロードについては、6.8 ディストリビューション用の最新の使用可能なカーネル(バージョン 2.6.32-696.20.1)に対してのみ増分レプリケーションがサポートされます。カーネルを更新した後で、次の blkwatch ドライバを使用します。

Red Hat Enterprise Linux 6 U8

```
RHEL6-RHSA20180169-2.6.32-696.20.1.el6.i686-x86
```

```
RHEL6-RHSA20180169-2.6.32-696.20.1.el6.x86_64-x86_64
```

プリコンパイル済みの blkwatch ドライバの一覧については、『ユーザガイド』の「[ディストリビューションのリスト](#)」を参照してください。

4.6 Migrate Web インタフェース：ソースの Windows Server 2012 R2 クラスタでシャットダウンがマイグレーション後の終了状態として設定されている場合、アクティブノードのみがシャットダウンされる

問題: Windows Server 2012 R2 クラスタでシャットダウンがマイグレーション後の終了状態として設定されている場合、PlateSpin Migrate Web インタフェースによってシャットダウンされるのはクラスタのアクティブノードだけで、パッシブノードはシャットダウンされません。ソースノードは、すべて Migrate Client によって正常にシャットダウンされます。(バグ 1085603)

修正: Windows Server 2012 R2 クラスタでシャットダウンがマイグレーション後の終了状態として設定されている場合、PlateSpin Migrate Web インタフェースがすべてのソースノードを正常にシャットダウンするようになりました。

4.7 カットオーバーテスト時またはカットオーバー時に Windows ワークロードのサーバ同期が失敗する

問題: カットオーバーテスト時またはカットオーバー時に Windows ワークロードのサーバ同期が失敗するのは、ターゲットマシン上でネットワーク設定の変換エラーが発生したからです。ターゲットマシン用の MAC アドレス情報がありませんでした。(バグ 1086507)

修正: ターゲットマシン用の MAC アドレスが設定情報に記載されているかどうかを PlateSpin Migrate によって確認されます。

4.8 Web インタフェースで一部のクラウドインスタンスサイズがプレミアムストレージをサポートしていないと誤って表示される

問題: [Instance (インスタンス)] メニューで一部のクラウドインスタンスサイズがプレミアムストレージをサポートしていないと誤って表示されます。これは表示エラーのようです。製品上ではこのタイプのストレージが正しく認識されています。(バグ 1071399)

修正: [Instance (インスタンス)] メニューでもプレミアムストレージをサポートしていることが表示されるようになりました。

4.9 Linux ワークロード: ブートおよびルートパーティションは同じディスクに存在する必要がある

問題: Microsoft Azure では、ルート (/) パーティションとは異なるディスク上にブート (/boot) パーティションを持つ Linux ワークロードがサポートされません。(バグ 972062)

修正: ルート (/) パーティションとは異なるディスク上にブート (/boot) パーティションを持つ Linux ワークロードの場合、バリデータは、ターゲットとして Azure コンテナが選択されないようにします。

4.10 PlateSpin OFX コントローラが仮想マシンソース上で起動しない

問題: VM の処理速度が遅すぎる場合、[ブロックベースコンポーネントのインストール] ステップの実行中に PlateSpin OFX コントローラの起動イベントがタイムアウトします。メモリ量と CPU リソースに限りがあるワークロードで VMware または Azure にマイグレートすると、この問題が発生することがあります。(バグ 1033673)

修正: 『ユーザガイド』の「[PlateSpin OFX Controller Does Not Start on a Virtual Machine Source](#)」を参照してください。

4.11 1500 未満の MTU 値の設定は、Hyper-V ホスト上の統合アダプタを使用する VM へのマイグレーションでは無効である

問題: 1500 未満の MTU 値が、Hyper-V ターゲットホスト上の統合アダプタを使用する VM へのマイグレーションでは無効になります。(バグ 1062546)

解決策: なし。Hyper-V 上の統合アダプタを使用する VM では、MTU 設定が制限されます。

4.12 X2P ワークフローを使用して Windows ワークロードを Hyper-V ターゲットにマイグレートする際のエラー

問題: X2P ワークフローを使用して、Windows 2003 または 2008 ワークロードを Microsoft Hyper-V ホストにマイグレートする際にジョブが停止するか、[コントローラのアンインストール] ステップで回復可能なエラーが発生します。Hyper-V ホストで統合サービスドライバが使用できない場合、このエラーが発生します。(バグ 1053168、1062716)

修正: Hyper-V ホスト上にない統合サービスドライバを手動で追加します。[ナレッジベースの記事 \(https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7022274\)](https://www.netiq.com/support/kb/doc.php?id=7022274) を参照してください。

4.13 ブートディスクとして Virtio ディスクを、データディスクとして IDE ディスクを持つ KVM 仮想マシンへのワークロードのマイグレーションが失敗する

問題: IDE および Virtio ディスクの両方が VM 上で使用できる場合に、ブートディスクとして Virtio ディスクが設定されている KVM 仮想マシンにワークロードをマイグレートする際に、ワークロードのマイグレーションが [ボリュームの作成とパーティション化] ステップで失敗します。(バグ 1063004)

修正: KVM ホスト上のターゲット VM で Virtio ディスクを使用する際には、次の適切なディスクタイプをブートディスクとしてターゲット VM に設定してください。

- **Virtio および IDE ディスク:** IDE ディスクをブートディスクとして設定し、Virtio ディスクをデータディスクとして設定します。
- **Virtio および非 IDE ディスク:** Virtio ディスクをブートディスクとして設定し、SATA や SCSI ディスクなどの非 IDE ディスクをデータディスクとして設定します。

4.14 ターゲット VM の VM コンソールウィンドウでマウスが機能しない

問題: カットオーバーテストまたはカットオーバー中に、vSphere Web Client の VM でマウスが機能しない場合があります。具体的には、[アクション] > [Open Console (コンソールを開く)] を実行して VMware Web コンソールを開くと、仮想マシンのコンソールウィンドウ内でマウスポインタが正常に機能しません。

修正: VM を手動で再起動して、VMware Tools にマウスの USB コントローラを認識させます。vSphere で、[アクション] > [Power (電源)] > [Restart Guest OS (ゲスト OS の再起動)] の順に選択します。

4.15 Migrate Client: サーバの検出解除後、ジョブビューに、サーバの検出解除ジョブステータスが表示されない

問題: サーバの検出解除アクションを実行した後、ジョブビューに、サーバの検出解除ジョブのジョブエントリが表示されません。ユーザは、ジョブが正常に完了したかどうかを簡単に判断することができません。PlateSpin Migrate 12.2 では、サーバの検出解除ジョブはジョブビューに表示されていました。(バグ 1071172)

修正: ジョブビューに検出解除ジョブが正常に表示されるようになりました。

4.16 Web インタフェースに、検出されたワークロードの編集済みホスト名が表示されない

問題: 検出されたワークロードのホスト名を編集する場合、Migrate Client では新しいホスト名が表示されますが、Web インタフェースでは表示されません。(バグ 1042869)

修正: Web インタフェースには、検出更新オプションがありません。『ユーザガイド』の「[Removing and Re-Adding Workloads in the Web Interface](#)」を参照してください。

4.17 Migrate Client で、ターゲットが正常に検出解除されてもターゲット検出解除ジョブでエラーが表示される

問題: Migrate Client を使用して到達不可能な vCenter 上にあるターゲットを検出解除する場合、Migrate Client の検出解除ジョブのステータスが失敗と表示されます。ただし、ターゲットは Migrate Client と Web インタフェースの両方から正常に検出解除されます。(バグ 1062786)

修正: 検出中にターゲットコンテナにコピーされたファイルのクリーンアップに備えて、ターゲットコンテナを削除 (検出解除) する前に、ターゲットコンテナが到達可能な状態にあることを確認してください。『ユーザガイド』の「[Undiscovering or Removing Source Workloads](#)」を参照してください。

4.18 ダイナミックメモリが有効になっている Hyper-V VM へのワークロードの X2P マイグレーションが失敗する

問題: X2P ワークフローを使用して、ソースワークロードをダイナミックメモリが有効になっている Hyper-V VM にマイグレートすると、[Sending and Receiving files (ファイルの送受信)] ステップでマイグレーションが失敗します。(バグ 1064801)

修正: X2P マイグレーションを開始する前に Hyper-V VM のダイナミックメモリを無効にします。カットオーバー後に Hyper-V VM 上のダイナミックメモリを有効にすることができます。

5 PlateSpin Migrate のインストールまたは更新

PlateSpin Migrate 12.2.2 では、「PlateSpin Migrate の前提条件のインストール」用の PowerShell スクリプトが提供されています。これを使用して、前提条件ソフトウェアを確認およびインストールしてから、適切な設定 (ASP.NET、IIS、および .NET Framework) を適用することができます。『インストールおよびアップグレードガイド』の「[前提条件ソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

12.2.2 のインストールについては、『*PlateSpin Migrate Installation and Upgrade Guide*』の「[PlateSpin Migrate のインストール](#)」を参照してください。

PlateSpin Server に PlateSpin Migrate 12.2.2 サービスパックを適用するには、中間パッチやホットフィックスが適用されているかどうかにかかわらず、サポートされている Windows プラットフォームに PlateSpin Migrate 12.2.1 がインストールされている必要があります。『*Installation and Upgrade Guide*』の「[Upgrading Migrate](#)」を参照してください。

注: Windows Server 2008 R2 プラットフォームからの直接的なアップグレードパスはサポートされていません。データベースをエクスポートしてから、サポートされている Windows Server プラットフォームに Migrate Server を展開できます。『*PlateSpin Migrate 12.2.2 インストールおよびアップグレードガイド*』の「[Upgrading to a New Host Platform](#)」を参照してください。

6 ライセンス情報

新しいライセンスを有効にする方法については、『ユーザガイド』の [PlateSpin Migrate 製品ライセンス](#) を参照してください。

7 以前のリリース

以前のリリースに付属していたマニュアルについては、[PlateSpin Migrate 12.2.2 マニュアルの Web サイト](#)で、*以前のリリース*までスクロールしてください。

8 Micro Focus への連絡方法

マニュアルを改善するための提案がございましたら、Documentation-Feedback@netiq.com 宛てに電子メールでお寄せください。

特定の製品の問題については <https://www.microfocus.com/support-and-services/> にある、Micro Focus サポートに連絡してください。

追加のテクニカル情報またはアドバイスについては、次の複数のソースを参照してください。

- ◆ 製品ドキュメント、ナレッジベース記事およびビデオ：<https://www.microfocus.com/support-and-services/>
- ◆ Micro Focus コミュニティページ：<https://www.microfocus.com/communities/>

9 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.microfocus.com/about/legal/> を参照してください。

Copyright © 2018 NetIQ Corporation, a Micro Focus company. All rights reserved.